

「理想の教師」に関する測定指標の再検討 —高校生と教員との差異項目機能 (DIF) —

小浜 駿 (宇都宮共和大学)

キーワード：理想の教師, DIF

問題と目的

本研究は、小浜 (2019) の尺度を改善し、理想の教師像および学校に対するイメージにおける高校生と教員との比較を行う。

小浜 (2019) では、当該の測定概念を測定可能な尺度が開発され、算術平均における比較で高校生と教員とが異なる理想像やイメージを持つことが示された。しかし、異なる集団間の回答傾向は、算術平均よりも DIF (差異集団機能、あるいは特異集団機能) や因子平均の観点で検討を行うことが望ましい。そこで、尺度の DIF 検討や因子平均による比較を行った船越・田崎・潮村 (2012) を参考に、小浜 (2019) の測定尺度についても DIF および因子平均の検討を実施することを目的とする。

方 法

調査対象者

高校生調査と教員調査の双方において新規データの追加を行った。小浜 (2019) の対象者 (高校生 183 名、教員 94) を含め、高校生計 301 名、教員計 188 名を対象とした。

調査内容 理想の教師に関する特徴 小浜 (2019) で測定された、32 項目 7 件法の測定尺度である。「対人・授業能力」「誠実さ」「生徒優先」の 3 因子から構成される。

学校に対するイメージ 小浜 (2019) で測定された、30 項目 5 件法の測定尺度である。「成長・向上」「自己抑圧」「受動性」の 3 因子で構成される。

結果と考察

データの取り足しに伴い、探索的因子分析を実施したところ、脱落した項目に多少の違いが見ら

れたものの、理想の教師の特徴と学校に対するイメージの双方の尺度において、ともに小浜 (2019) と類似した 3 因子が得られた。

探索的因子分析で得られた尺度構成の内容にしたがって、高校生と教員とを区別した多母集団の確証的因子分析を行い、適合度指標による DIF 検討を行った。特定の項目のパス係数に等価制約を行った際に適合度指標が悪化した場合は、不均一 DIF が疑われ、切片に等価制約を行った際に適合度指標が悪化した場合は、均一 DIF が疑われる。

DIF の検討の結果、高校生と教員とでパス係数が等しいという制約に問題がある項目は、理想の教師の特徴に関する 1 項目のみであった。一方で、切片が等しいという制約に問題がある項目は、理想の教師の特徴において計 13 項目、学校に対するイメージにおいて計 9 項目存在した。

さらに、各尺度の尺度構成の結果にしたがい、算術平均と因子平均の双方を集団ごとに算出した。算術平均については、t 検定の結果も併記した (Table 1)。

引用文献

- 小浜駿 (2019). 「理想の教師」に関する測定指標作成の試み—教員と高校生との比較— 日本教育心理学会 61 回総会論文集
- 船越理沙・田崎勝也・潮村公弘 (2012). 平均構造・多母集団同時分析を用いたセルフ・モニタリング (Self-Monitoring) 尺度の文化的等価性の検討 社会心理学研究, 2012, 28, 180-188.

Table1 理想の教師の特徴と学校へのイメージに関する平均差

項目		t検定 ^{※1}						因子平均 ^{※2}				
		高校生		教員		df	t-value	p	高校生		教員	
		Mean	SD	Mean	SD				est.	SE	est.	SE
理想の教師 の特徴	対人・授業実施能力	6.37	0.64	6.19	0.59	324	2.86	**	6.32	0.07	6.38	0.07
	誠実さ	6.09	0.72	6.22	0.57	378.27	-2.01	*	5.85	0.07	6.24	0.07
	生徒優先	5.14	1.15	4.88	0.95	374.20	2.52	*	5.10	0.09	5.04	0.10
学校への イメージ	成長・向上	4.12	0.69	4.25	0.44	416.93	-2.34	*	5.31	0.23	5.61	0.50
	自己抑圧	3.56	0.73	3.54	0.55	421.63	0.38		3.45	0.06	3.16	0.07
	受動性	3.51	0.83	2.91	0.70	364	8.23	***	2.84	0.07	2.21	0.08

※1 等分散性の仮定が満たされなかった際はWelchの検定を行った

※2 est.: 因子平均推定値 SE: 標準誤差

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$